

2024年 3月 24日 《 卒 業 祝 福 式 》

# 主 日 礼 拝

司 会 ②石井 秀人兄

奏 楽

祈 禱 ②石井 洋子姉

賛 美 聖歌399番「カルバリ山の十字架」  
～十字架の叫び～

十 戒

聖書朗読 ヨハネによる福音書19章28～37節

特別賛美 “十字架の上で” (映画「パッション」から)

メッセージ 「すべてを成し遂げられた主イエス様」  
石井 潤 牧師

献 金 讃美歌136番「血潮したたる」

賛 美 ～勝利・感謝・主に栄光～

祝 禱

お知らせ [司会者]

卒業祝福式・賛美「すべてのすべて」

☆礼拝にお越しくださった皆様を心よりご歓迎いたします!☆  
《今週のお知らせ》

☆卒業生のためにお祈りください。本日の午後は聖歌隊の練習が行われます。

★今週の祈り会： ①早天祈祷会 明朝6時、 ②祈祷会：木曜午前10時半  
〔WOGA 集会/ポーマン・ルリ子師〕。夜7時半。③準備祈祷会：土曜夜8時。

☆来週の日曜はイースター礼拝(司：石井兄/祈：白川兄)と「信徒懇談会」。

\*\*\*\*\*

◆土地献金口座：[郵便局から]【記号】11180【番号】15302281/ウエダカルバリーチャペル  
[他銀行から]【店名】一八(イチイチハチ)/【店番】118/普通預金/【口座番号】1530228

| ★一年に一回聖書を完読できる! Bible Reading Plan [3/24-31]☆ |              |       |       |       |       |       |            |     |
|---|--------------|-------|-------|-------|-------|-------|------------|-----|
| Date  | 日            | 月     | 火     | 水     | 木     | 金     | 土          | 日   |
| 聖書箇所  | ヨシュア<br>9-10 | 11-14 | 15-17 | 18-20 | 21-22 | 23-24 | マルコ<br>1-3 | 4-5 |
| チェック  | 〇〇           | 〇〇〇〇  | 〇〇〇   | 〇〇〇   | 〇〇    | 〇〇    | 〇〇〇        | 〇〇  |

## 「すべてを成し遂げられた主イエス様」

～主の私たちのお苦しみを感謝する心をいadakou!～

「わか神、わか神、なぜ私をお見捨てになったのか。…。私を見る者は皆、嘲あざかり、唇を突き出し、頭こづつを振る。『主に任せて救ってもらうがよい。主か助け出してくれるだろう。主のお気に入りなのだから』と。…。力は素焼きのかげらのように乾ききり、舌は顎あごに張り付いた。…。私は骨をみな数えることができる。…。私の服を分け合い、衣をめぐってくじを引く。」「叫び疲れて、喉は潤われ、わか神を待ち望み、目は衰えました。…。私はあなたのゆえにそしられ、顔は恥辱に覆われています。…。あなたをご存知です。私か受けたそしりを、恥を、辱めを。私を苦しめる者はすべてあなたの前にいます。そしりは私の心を打ち砕き、私は病に伏しました。望んでも同情は得られず、慰めてくれる人もいません。彼らは私の食物に毒を入れ、渇く私に酢を飲ませようとします。…。彼らは、あなたに打たれた人をなおも迫害し、あなたに刺し貫かれた人の痛みを数え上げているからです。…。私は苦しみ、痛みの中にいます。神よ、あなたの救いか私を高く上げてくださいますように。私は歌をもって神の名を賛美し、感謝をもって、神を崇あがめます。…。苦しむ人はこれを見て喜びます。神を尋ね求める人よ、あなたがたの心に命か与えられますように。主は貧しい人に耳を傾け、捕らわれた民を決して侮ることはありません。」詩篇22:69篇【協会訳】

今週は受難週。主が十字架でのお苦しみをなさったことを特別に想い、祈る時です。

上記の詩篇は、特に主の十字架と関連のある預言の部分を選抜しました。この詩篇を書いたのはダビデと言われますが、それから約1000年後になされる主イエス様のお苦しみを知っていた訳ではありませんが、聖霊によって導かれてこの詩篇を記しました。奇しくも、この出来事が救い主によって現実化し、全人類の救いが実現することとなるのです。罪のない、聖い神のひとり子なるお方が、私たちの代りに、神に捨てられたことにより、私たちが救われることとなる。私たちすべての人間は、一人残らず、己の罪ゆえに、死すべき存在です。だからこそ、すべての人にその肉体的な死が訪れます。しかし、主の救いを信じることによって、「自分はこの死によって終わりではない」という希望を持つことができるので、救われているのです。

イエス様のご誕生であるクリスマスは明るく、華やかで、おめでたい出来事としてお祝いすることができますが、イエス様の死は、暗く、陰謀と殺戮に満ちていて、どうしても感謝することができません。しかし、イエス様ご自身、最後の晩餐の際には、「感謝して」パンを裂いて、弟子たちに配られました。そこには、イエス様を死に引き渡してしまう裏切り者のユダもいて、彼もそのイエス様に足を洗ってもらいましたし、その肉体の象徴であるパンを食べ、主のお命、流される血を意味するぶどう酒もいただいています。ユダがたとえ裏切ったとしても、また、ペテロもイエス様の弟子であることを否定してしまいましたし、その他の弟子たちも、恐ろしくて、ゲッセマネの園でチリチリバラバラに逃げてしまいましたが、そんなことはお構いなしに、主は完全なる救いを実現してくださいました。私たちもその中に居た者として、感謝を受け止めたいと思います。